

綾栄会 16 ニュース

令和元年12月1日発行

第54号

学校法人 香川栄養学園 募金担当
〒170-8481 東京都豊島区駒込3-24-3
tel.03-3918-3701

●坂戸キャンパス

女子栄養大学大学院
女子栄養大学（栄養学部）

●駒込キャンパス

女子栄養大学（栄養学部二部）
女子栄養大学短期大学部
香川調理製菓専門学校

学園の宝の発見・ 発信で認知度向上

学校法人 香川栄養学園
女子栄養大学 常務理事

現在、本学の認知度は、十数年前と比較にならないほど高くなっています。

赴任当初、高校訪問をしても、若い先生方はほとんど「知らない」。地方に行くと聞いても「知らない」という答えが返ってくるほど、認知度は低い状況でした。その頃、ある地方出身の一年生に「帰省してどうだった」と聞くと「さびしい思いをしましたが」と一言。高校時代の同窓生が集まり、自然に進路先の話になり、「どこに行ったの」との質問に、「女子栄養大学にいったの」「エッそれなに？」と誰も知らなかつ



染谷 忠彦

た事にショックを受け淋しい思いをしたと聞きました。それが現実だったのです。それを聞き、「あと三年待つてね、卒業前には日本全国どこに行っても知らない人はいない大学にするから」と約束しました。

専門性の高い大学ですので、「知る人ぞ知る」で、仕方がないといえは仕方ないのですが、教育力が高く、自慢できる大学なのになぜなのか。当時は、広報活動への理解が低く、その点を怠っていたのではないのでしょうか。中にいると気づきにくいからでしょうか、誇るべき専門性と宝物を社会に

アピールしていなかったのです。メディアからの取材依頼もたらい回しにしていた現状には驚きを感じませんでした。認知度を高める働きかけがないことが、幅広い層への認知が高まらない原因です。他大学では、市場（ターゲット）である高等学校、高校生に徹底的にアピールするために、教職員を総動員して高校訪問をしているのに、ここではほとんど何もしていない。

そこで広報部を設置し、大学の宝物を探し始めました。まずは卒業生を活用すること。社会で実際に活躍している卒業生を活かさない手はありません。そして、ここには、他大学にはない「生涯学習講師認定制度」があります。高校での模擬講義、その他教育機関や自治体、団体等での講演会などに積極的に講師を派遣、今では年間4500件の講師派遣を行っています。これにより、高校での認知度は、飛躍的に高まりました。

次に、社会での認知度向上に取り組みました。本学の宝物の一つは「学食」です。全国的にも数少ない自校での運営であり、栄養のバランスが計算されたメニューは、学生に対する教育の教材でもある実践の場なのです。たまたまその事を社会に売り出し始めた時に、「タニタの社員食堂」が話題になり、そのタイミングでPHH研究所と幻舎から学食メニュー集を出したと言う要望があったので許可しました。両社で54万部以上の売り上げがあったほどの人気になったのです。

現在、メディアからの問い合わせに全て対応することはもちろん、メディアへの情報発信・提供も積極的に行っており、年間4000件以上の露出があります。毎日、どこかのテレビ、新聞、雑誌など、何らかの形でメディアに取り扱われています。社会連携もそうです。企業、自治体、学校等、連携や個別の取り組みの総数は、205件に及びます。この数は、全国のどの大学にもまさるものです。本学がこれ

までに培ってきた専門分野における実績があつてこそのものであります。

この連携活動は、卒業生の就職先の拡大にもつながっています。企業においては、付加価値のついた商品メニューの考案から、「健康経営」の流れを受けた顧客や社員向けの食事指導など。自治体では、医療費、介護費を抑えるための住民生活指導、食・健康に関する教育や普及、地元特産物を使った食品の開発や販売戦略立案など。高校では家庭科の実習をサポート、栄養系の模擬講義、スポーツ系のクラブ活動の食指導等を行っており、連携先から高い評価をいただいています。そしてその活動、評価により、インターンシップの受け入れ先が拡大しています。また、こうした活動に学生が参加することが貴重な経験となり、これまでにない進路を見つけるケースも出てくるなど、就職活動にも良い影響を与えています。そしてそれが、社会における管理栄養士、栄養士に対する認知度を高めることにもなっています。

これらはすべて、建学の理念である「食により人間の健康の維持・改善を図る」と、今に引き継ぐ「実践」の精神を具現化するためのものであると同時に、大学の認知度を高めることにもなるのです。ここに紹介した活動は一部ではありますが、高校生へのアピール、社会貢献に関し、開拓すべき道はまだあります。

大切な事は、この動きを止めることなく、本学の宝物を広く掘り起こしながら世に示していくことです。

それこそが、在学生・在校生や保護者、卒業生、そして本学にかかわるすべての人が、本学を選んで良かったと思える、さらには誇りと感じていただくために不可欠なことであり、使命であると考えています。皆さまにはご理解をいただき、広く関心をもって本学を見守っていただければ幸いです。

学園トピックス

麹町学園女子高等学校と「連携教育協定覚書」を締結

平成31年4月11日（木）、駒込校舎において、麹町学園女子高等学校と連携教育協定覚書を締結しました。

同校とは、平成19年に高大連携教育協定を締結しており、今回の覚書は、その協定に基づき取り交わしたもので、「相互の教育に係る連携を通じ、学習意欲や進路意識を高めるとともに、大学の求める学生像や教育内容への理解を深め、互いの教育体制の活性化を図る」ことを目的としています。

これにより、同校は「高大連携推薦指定校」として、大学と短大部で総数5名程度、一定の基準を満たした生徒の推薦が可能となります。



女子栄養大学 麹町学園女子高等学校
連携教育協定覚書 締結式
平成31年4月11日

I・PU環太平洋大学と「連携協力に関する協定」を締結

平成31年4月15日（月）、I・PU環太平洋大学（岡山県岡山市）において、連携協力に関する協定の調印式を行いました。

同大の体育会の活躍は目覚ましく、日本を代表するアスリートを多数輩出しています。

今回の協定は、アスリートの食の改善に対する取り組みや「食育」に関する取り組みを行うこととしており、今後、両者により、具体的な取り組みを進めていきます。



女子栄養大学と環太平洋大学との連携協力に関する協定調印式

今回の締結により大学間連携は、埼玉医科大学・東京医科大学・日本薬科大学・上越教育大学に続き、5大学目となります。

本学監修ウエルシア薬局PB商品「大豆まるごとヨーグルト」発売

ウエルシア薬局（平成30年6月連携）との取り組みにより、同社プライベートブランド商品として「女子栄養大学監修 大豆まるごとヨーグルト」（食品化学研究室 宮澤紀子専任講師監修）が平成31年4月26日、同店舗にて発売になりました。

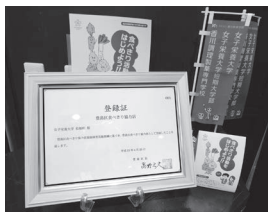
これは、埼玉県産大豆（里のほほえみ）を100%使用したヨーグルトに、葉酸200μgを配合した1カップ90gの商品です。



松柏軒が「豊島区食べきり協力店」第1号登録店に

本学園で学食やレストランなどを営業する「松柏軒」は、この4月に「豊島区食べきり協力店」第1号店に登録されました。これは、今年度より東京都豊島区（平成19年11月連携）が始めた取り組みで、食品ロス削減に取り組みむ区内の飲食店、宿泊施設等を「豊島区食べきり協力店」として登録し、食品ロスの削減等を促進するとともに広く区民に周知し、食品ロスの削減等に向けた意識の啓発を図るものです。

豊島区役所本庁舎で平成31年4月25日に行われた「食べきり協力店」第1号登録証交付式において交付された登録証は、来店される多くのお客様の目にとまるようレストラン「松柏軒」の受付カウンター上に設置しました。また同区配布のポスターやポップも店内に設置し、食べ残し削減



に向けた啓発活動に協力しています。

富士見市主催「セルビア語&セルビア料理教室」へ参加協力

埼玉県富士見市（平成26年2月連携）のホストタウンであるセルビア共和国のPRとして、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の関連事業「セルビア語&セルビア料理教室」が令和元年5月18日（土）ふじみ野駅前にある「ピアザ☆ふじみ」で開催され、堀端薫准教授と石田優海実験実習助手、卒研生（給食システム研究室）8名が調理補助として協力しました。

当日は、市内在住20名が参加し、セルビア共和国大使館大使秘書の長門ティヤナ講師の指導のもと、セルビア共和国の家庭料理4品（セルビア風サラタ・チーズ入りのトウモロコシ粉のパン・セルビア風カツレツ・アーモンド入りココナッツボール）を作り、交流を図りました。



鴻巣市（埼玉県）・日本薬科大学との3者間での「地場産業の振興等に関する包括連携協定書」を締結

令和元年9月4日（水）、鴻巣市役所において鴻巣市（埼玉県）と日本薬科大学と本学との3者間での「地場産業の振興等に関する包括連携協定書」の締結式を行いました。

日本薬科大学とは、昨年7月に包括連携協定を締結し、「薬食同源プロジェクト」の取り組みの一環で、花の町鴻巣をエディブルフラワー（食用花）や鴻巣産野菜で盛り上げようと両大学の学生が共同でメニュー開発を行い、鴻巣市内のカフェでメニュー提供を行ってききました。

この取り組みが契機となり、今回の3者間での包括連携協定に至りました。

今後は、それぞれの専門性を活かし、「薬食同源」をキーワードに、鴻巣市の「地場産業の振興」や市内の200名を超える食生活改善推進員の方々を通じた健康増進活動の推進、市内特産物を使った商品開発等の取り組みを進めていきます。



地場産業の振興等に関する包括連携協定書締結式
鴻巣市・女子栄養大学・日本薬科大学

創立者 香川綾の故郷である和歌山県との包括連携協定を締結

令和元年10月7日（月）、和歌山県庁において、和歌山県と包括連携に関する協定を締結しました。

すでに両者は、短期大学部松田早苗教授が、現在発行されている「和歌山県産食材機能性ガイド」を監修しており、昨年は駒込祭にも出展していただくなどの取り組みを行ってまいりましたが、今回の締結により、今後の県民の健康増進や豊かな食材による産業振興等、地域社会の発展に寄与する取り組みを進めていきます。



また同県は、本学創立者香川綾の故郷であり、今回の締結を記念し、県庁本館県民ロビーにて、10月15日迄「女子栄養大学創立者香川綾氏の軌跡をたどる」と題し、パネル展示を行いました。

今回の締結により、自治体等との連携は、30区市町村区及び振興局となります。



綾栄会事務局よりのご報告

「令和元年度DNP奨学金」授与式を開催

7月6日(土)に「令和元年度 DNP奨学金」授与式が奨学生9名参加(諸事情により1名欠席)のもと、坂戸校舎にて開催されました(奨学生:大学8名、短期大学部2名)。

この奨学金制度は、株式会社DNPファシリテイサービストとの連携協力に基づき設立されたもので、栄養学部・短期大学の最終学年に在籍する成績優秀者10名に奨学金(10万円)として給付されるものです。

今年で7回目の開催となる授与式には、同社の柳代表取締役社長にご列席いただき、奨学生一人ひとりに対して、香川学長と柳代表取締役社長よりそれぞれ奨学証書と奨学金が授与されました。授与式後の会食・歓談では、奨学生より感謝の意が述べられました。



「令和元年度野口医学研究所奨学金」授与式を開催

10月15日(火)に「令和元年度野口医学研究所奨学金」授与式が奨学生14名参加(教育実習により2名欠席)のもと、駒込校舎松柏軒にて開催されました(奨学生:大学11名、短期大学部3名、専門学校2名)。

本奨学金は、修学意欲がありながら経済的な支援を必要とする、栄養学部・栄養学部二部・短期大学部・専門学校の最終学年に在籍する学生及び生徒に、一年間にわたり奨学生一人当り月額2万円、計24万円が給付され、学納金として充当されるものです。

今年で7回目の開催となる授与式には野口医学研究所より創設者の浅野嘉久名誉理事をはじめ4名様にご列席いただき、奨学生一人ひとりに対して浅野嘉久名誉理事より奨学証書が授与されました。

授与式後の会食・歓談では、奨学生より感謝の意が述べられました。



「令和元年度綾栄会総会・推進委員会」報告

令和元年5月28日(火)、「綾栄会総会・綾栄会推進委員会」を推進委員・企画委員23名出席のもと開催しました。綾栄会事務局より、昨年度募金状況と今年度募金推進活動方針を報告しました。

平成30年度の綾栄会募金総額は、1億2539万3143円となり、このうち個人からの寄付金は、1億1323万9835円、法人からの寄付金は、1215万3308円でした。古本募金での寄付は、申込件数245件、申込冊数2万2126冊、合計金額51万9655円となりました。

荒井慶子様からのご寄付

昨年度、卒業生であり本学の講師も勤められた荒井慶子様からの多額の寄付につきましては、学園の国際化への推進に向けて、学生・生徒の海外留学、海外インターンシップへの参加や語学資格取得等の支援を目的とする給付型の奨学金基金(「荒井慶子グローバル人材育成奨学金基金」として、次年度からの奨学生募集に向けて教育支援部国際交流課を窓口にて運営規程の確定を取り進めています)。

香友会(同窓会)からのご寄付

6月23日(日)坂戸校舎にて開催された令和元年度香友会ホームカミングデーのランチパーティーにおいて、女子栄養大学香友会山下静江会長より香川明夫理事長に綾栄会募金へのご寄付として100万円の目録贈呈が行われました。香友会の皆様からのご支援に篤く御礼申し上げます。



香川栄養学園 古本募金をご活用ください。

皆様の読み終わった本が学生・生徒の生活充実支援のために教育・研究環境の整備などに役立てられます。

ご不要となった本やCD・DVDをご提供ください。その買取価格が全額、香川栄養学園への寄付となり、学生・生徒の生活充実支援に役立てられる取組みです。

香川栄養学園 古本募金

検索

(提携会社) 株)バリューブックス
フリーダイヤル 0120-826-292

古本募金の2019年4月～9月までの受付分は、130件(10,594冊)で寄付金額は223,678円となりました。お申込みを頂きました皆様に御礼申し上げます。

ご寄付者一覧

第54回報告

令和元年4月～9月末日お申し込み分

ご寄付をいただいた方々のご芳名を掲載しております
(五十音順、敬称は省略させていただきました)。
ご支援を賜りありがとうございます。御礼申し上げます。

- 2回以上ご寄付をいただいた個人・法人のご芳名も1回の掲載とさせていただきます。
- 住所・氏名など変更がありましたら、お手数ですが綾栄会事務局 (TEL03-3918-3701 E-mail:bokin@eiyo.ac.jp) までご連絡をお願いいたします。
また、綾栄会に関するご希望、ご意見も遠慮なくお寄せください。

個人

卒業生 篤志家 学園教職員

相場 公子
相原 晶子
青木 章子
秋野 晃司
浅野 嘉久
足立 望
穴倉 弘枝
阿部 智子
新井 眞一
安藤 美知子
石田 憲治
石原 雅義
石山 三貴男
一松 倫子
市村 百合子
井手 政司
伊藤 弘子
稲葉 三起夫
井上 直子
伊吹 憲昭
井元 りえ
岩間 範子
上原 美智子
臼倉 節
内野 美保
大河内 教好
太田 セツ子
大留 光子
大沼 久美子

大沼 由美子
大野 治信
小川 澄子
小川 孝
小川 幸子
沖井 澄子
荻原 英子
奥嶋 研司
奥嶋 佐知子
奥堂 雅之
長田 斎
小澤 陽子
小野 仁子
皆田 健太郎
香川 明夫
香川 靖雄
笠原 隆子
加藤 宏幸
金澤 久美子
金谷 滋子
金田 雅代
鎌田 靖子
亀田 紘子
柄澤 敦子
川内 唯之
川端 輝江
木下 峻介
金野 恭子
國吉 君子
久保 宏子
熊沢 孝仁
倉持 圭子
慶田 美佐子

小池 澄子
小松 孝正
五明 紀春
小森 明
齊藤 優子
崎川 康子
佐々木 浩二
佐藤 慎悟
佐藤 智英
自覚 真由美
志田 佐代子
篠原 郁子
柴田 美佐子
渋谷 まさと
清水 豊
女子栄養大学香友会
菅原 久美子
菅原 朋子
杉本 勝行
杉山 成二
染谷 忠彦
田浦 真実
高城 孝助
竹内 恭子
武尾 亮
伊達 静子
立野 恵美子
土屋 純一
角田 美恵子
出羽 式子
富永 暁子
富野 博樹
中里 富美子

中津井 祐一
中西 梓
中屋 祐子
中山 京子
根岸 由紀子
野村 義行
箱山 良治
橋本 幸治
長谷川 満
羽鳥 洋子
原口 英男
平口 嘉典
廣末 トシ子
廣田 典子
深堀 聖子
吹春 秀典
藤井 加代子
藤尾 規江
藤田 美由樹
古川 知子
古川 瑞雄
古海 大輔
堀 純子
前田 之子
眞山 静子
丸山 精子
丸山 美穂子
三浦 幸子
宮坂 静
三好 恵子
向井 邦江
村上 陽子
矢野 大介

山岸 美和子
山口 範雄
山口 弘子
山之内 幸子
吉川 僚一
吉澤 宏之
脇田 慎司
和崎 祥子
渡部 修司
渡邊 容子

保護者 在校生

浅見 悦弘
五十嵐 由美子
井汲 達也
石川 雅博
海老名 邦英
大久保 伸吾
大久保 貴予
小倉 洋介
恩田 誠一
金子 弘美
鎌田 克信
川村 恵子
後藤 安奈
小西川 永一
齋藤 伸一
佐々木 克弘
佐藤 英子
佐野 公則
仁義 和彦
鈴木 清晃

須永 幸作
高田 莉音
東城 元治
藤間 光行
中尾 達男
中村 加津雄
西川 達男
仁田 智之
新田 和枝
根木 淳成
野口 善一
花村 創仁
羽生 貴子
原田 守
樋口 光代
蛭田 孝之
藤田 千佳
藤本 正徳
保阪 大也
細川 欣哉
松山 晶子
宮田 保彦
持田 誠一
八木 信男
柳沼 正典
山本 英子
横内 佐代子
吉澤 巖
渡辺 正美
匿名 122名

法人

有限会社 RMステーション
株式会社 アイト
あみ印食品工業株式会社
公益財団法人 浦上食品・食文化振興財団
株式会社 栄美通信
有限会社 大場電気管理事務所
株式会社 オーエンス
香川県農業協同組合
株式会社 プロントコーポレーション
株式会社 進路情報ネットワーク
株式会社 銀しゃり
株式会社 鎌谷書店
恵雅堂出版株式会社

埼玉環境衛生株式会社
株式会社 埼玉種畜牧場
有限会社 狭山グリーンサービス
サングラフィック株式会社
株式会社 シー・アイ・シー
清水建設株式会社
杉本刃物株式会社
株式会社 創源
株式会社 ソフェル
第一生命保険株式会社
株式会社 田村屋
株式会社 ダンアート
株式会社 東北食糧

日本ソフト開発株式会社
ハウスウェルネスフーズ株式会社
様名商事
株式会社 不二ビルサービス
武州瓦斯 株式会社
米国財団法人 野口医学研究所
株式会社 バルク
瑞穂印刷株式会社
株式会社 ユース
株式会社 ライセンスアカデミー
ライフ薬品株式会社

香川栄養学園 教育・研究促進事業

《募金報告》

	個人		法人		合計	
	金額 (円)	件数	金額 (円)	件数	金額 (円)	件数
今回54号報告分 令和元年4月～9月	8,636,190円	333件	6,732,947円	39件	15,369,137円	372件
古本募金 令和元年4月～9月受付分	223,678円	130件 (10,594冊)				